



発行者  
文京学院大学  
女子中学校  
南部 和彦

### 初めての体育祭

一年栗組 塚田 愛美

六月七日、私達一年生にとって初めての体育祭が始まった。体育祭実行委員である私は、出場する競技と、実行委員として働く競技の合わせて五つの競技にかかわった。

私が出場した競技は、「台風の日」と「ロープフライター」だ。台風の日には、ブロック競技ではなく、学年内で順位を競う学年種目で、自分たちのクラスに得点が入る競技だ。私のクラス栗組は、みんなで息を合わせた。そして、見事に一位になった。ロープフライターは、グリーンブロック、ブルーブロック、レッドブロックの三つのブロックで争うブロック競技で、勝てば、私達のレッドブロックに得点が入る。この競技は、一年生対三年生、一年生対二年生の順で行われた。一年生は、三年生にも、二年生にも勝つことができてみんなで大喜びをした。

さて、私が体育祭実行委員の係りとして担当したのは、「審判」である。百メートル走、踊れ玉入れ、障害物競走の三種目の審判を任された。百メートル走と障害物競走では、ゴールインした順番に選手を着順を記した旗に誘導する。間違った人を誘導してしまったり、点数が狂ってしまうので、重要な役目だった。踊れ玉入れでの審判の仕事は、ルール違反となるようなことをする人がいないかを見守る役をした。幸いそのようなことをする人はいなかった。初めての体育祭、結果は、レッドブロックは三位で、最下位だったが、一年生の中で、私達の栗組は見事に優勝することができた。これは栗組の団結力と努力の結果だと思う。中学一年生は、他のクラスも一致団結して大いにがんばっていた。来年もまたチームワークを発揮し、体育祭をいっそう楽しみたい。

### 体育祭

二年松組 粕谷 芽花

今年の体育祭は、クラス優勝とグリーンブロック優勝を目指して頑張りました。自分が今年出た競技は大縄、リレー、集団演技の三つです。うれしかったこと、悔しかったこといろいろあったけれど、とても達成感があって充実させることが出来ました。一番印象に残っているのは傘を使った集団演技です。今までは全然違う新しい演技を山田先生が考えてくれました。元気があり余っている私たちの学年にぴったりの演技でした。予行練習では学年であわせたのが初めてということで、グダグダな演技で学年もまとまっていなかったけど、本番では学年が一つになってとても良い演技が出来たのでうれしかったです。

他にも松組は二年間同じクラスならではの団結力を大縄で活かすことが出来ました。練習の時は新記録をなかなか出せず、アドバイスをしあったり、少しもめたりもしましたが、やっぱり良いクラスだと思えました。リレーは悔しい結果だったけど、やりがいがありました。校庭の全面を使った練習が出来なかったり、けが人もいたりしましたが、みんな力を合わせて全力で走りました。決勝では0・33秒差で負けてあと少しでしたが、このメンバーでやれてよかったです。

自分は今回の体育祭で団結力の大切さと応援しあえる仲間がいることが自分にとってすごく力になることを改めて感じました。中学生生活最後の体育祭でとても良い思い出を作ることが出来ました。



### 反響

sister Act〜天使にラブソングを〜を  
二年桃組 斉木 奈々子

「それではみなさんおましかねの時間です」  
そう森公美子さんが言うと、全員がサイリウムを手を立ち上がった。みんな笑顔で、観客席全体がサイリウムの光で、宇宙にいるようになった。みんなではしゃいで、大騒ぎになっていった。芝居を観ていると言ふより、体育祭のようである。

森公美子さん演じる主人公デロリスが偶然、殺人事件を見ってしまうシーンから、物語はスタートした。デロリスは、悪党から逃げるために修道院にやってくる。デロリスの大声が、修道院に音が反響してしまうシーンがあった。デロリスがそのことに興奮して、何回も大声で歌ってみるシーンが一番おもしろかった。あのシーンに見覚えが有ったせいだと思ふ。誰かに似ていた。それもそのはずで、小さい頃の「私」だ。家の駐車場で

「こんにちは」

とよく叫んでいた。声が響くのが楽しくて、大好きだった。デロリスと一緒に、つい叫んでみたくなる。いや、叫んでしまいたいようになった。そのくらい、芝居にのめり込んでいたと言ふわけだ。

最後に、森公美子さんが

「文京学院女子のみなさん」と叫んでくれた声は、残念なことに木霊となることはなかった。少しがっかりした。

しかし、その分、心には強く、つよく響いた。

